

◇「公と個」

幹事 飯島 光幸〔新宿支部(有)トーフ・デリバリー〕

未曾有の大震災による災害を受けた被災者の皆様方に改めてお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興が出来ます事を一国民として心より祈念申し上げます。

先日の事、学生時代の友人である経営者と旧交を温めていた、その会話中彼の震災時の言動を聞き、胸を打たれ且つ反省した。

三月十一日、彼は私的な旅行で外国に滞在中に国難を知り急遽帰国すべく手配したが叶わず悶々と時を過ごした。

十三日やっと帰国し帰社後、報告を受ける事になり事態の深刻さに気づく。

営業所の従業員、家族の安否は勿論、被災状況を聞き、十五日現地へ飛んだ。

惨状は想像以上だったが今会社として必要とされる事柄を次々と被災社員へ支援し、就業規則、雇用条件を、改めて提示、改正を即断し、且つお世話になった地域へ義捐し、瓦礫の中、十七日に帰京した。

彼の親戚も被災していたにも関わらず会社関係者を優先したとの事。

彼曰く、「公」があるから「個」があり、「会社」があるから「家庭」がある。この当たり前のことをしたまでという。

日本人は古来、家長制度という一家の長が他を思いやる制度があり、総ての責務を背負っていた。その延長線に日本国民の根源を為す精神が生きていたと思う。

戦後占領軍政策により、日本人の大切な道徳感が削除されてきた。

あげく間違った民主主義(利己主義)が蔓延り「公」より「個」を尊重する風潮になった。しかし、この大震災を境に日本国民が皆で助け合い、協力し合う姿を見るにつけ、民族の尊厳、美德である相互扶助の精神が蘇ったような気がした。

◇お知らせ《○ロジ研行事予定》

○7/11(月)15:00～企画委員会正副委員長会議

東ト総合会館4階(6F中より変更)

○7/19(火)15:00～正副本部長・幹事会合同会議

○同日 東ト協ロジ研上映会「地球交響曲第7番」

1. 日時 平成23年7月19日(火)

受付開始 15:30 上映 16:05～18:15

(終了後 18:30～4階で交流会:軽食と飲物 会費1,000円)

2. 場所 東ト総合会館 7F 大会議室

3. 参加 180席 無料

(事前登録制で席は先着順となります。)

4. 登録 お申し込みは、7月12日(火)までに東ト協教育研修部まで。

お問合せ先 東ト協 教育研修部 Tel.03-3359-4137

○8/4(木)17:00～正副本部長会議

○同日 東ト協ロジ研納涼会

18:00～ロジ研納涼会 於: 明治記念館

納涼会では関東運輸局長・東京運輸支局長表彰受賞者のお祝いをいたします。

◇「これでいいのか中型免」

平成23年5月某日、晴れて大型一種免許が私の免許証に書き加えられることとなった。いい年をして教習所に通うこと約1か月、普通免許取得以来二十数年ぶりの所内教習、路上教習を無事?通過し、卒業証書を持って勇んで行った江東免許試験場での交付だった。

元来視力は良いのだが、最近は老眼?とも乱視ともとれる視力で<深視力検査>に一抹の不安を抱きながらも無事にパス。待つこと数十分、念願の<大型>の文字を確認し、心の中で小さくガッツポーズを取った。

しかし、同時に免許証の異変にすぐさま気が付いた。今まで慣れ親しんできた免許証の<中型車は中型車(8t)に限る>の文字が消えているではないか。

中型の「限定解除」をすると深視力検査で落ちた場合、残された資格は<新普通>という事になる。私が取得したのはあくまでも<大型免許>だけである筈。私は急いで免許センター1階の受付へ行き、限定が消えていることを告げ、訂正してほしいと申し出た。

受付の担当者は「あっ、本当ですね」と事務所の奥へ一旦確認に行く。数分後、「これで良いそうです。大型免許という上位免許を取得したので、中型は自動的に限定解除され、8t限定が外れることになっているようです。」との回答。

私の「それは法律で決まっているのか?」との質問に「そのようです、まあ、大型が乗れるのだから中型がどうこうは関係ないじゃないですか」と、その後、各所で聞くことになる返答があるだけであった。

納得がいかない私は自宅に帰宅後、再度免許センターに電話をした。そこから警察庁に聞くように言われ、警察庁広報室に電話をする事に成った。

「ここは免許の担当部署ではない」ということから警視庁交通部に電話するように言われ、警視庁に電話する。

応対していただいた女性警察官は「法律等を調べるので時間をくれ」ということで、自分の携帯番号を告げ連絡を待つこととなった。

数時間後、「あなたのおっしゃることは個人的にはよくわかります。しかし法律では決まっていますが、平成19年6月3日の免許制度改正以降に大型免許を取得した場合、中型の限定も解除されてしまうようです。と言うことでご理解ください」という何とも良くわからない納得し難い回答であった。

取得したばかりの今でさえ不安がある「深視力検査」、数年後に免許更新できる確約はない。次回の更新後、乗用車にしか乗れなくなる可能性があるのは私だけではないはずである。若年層のドライバーが少なくなっている昨今、業界の将来が危ういと思っているのは私だけだろうか・・・

ロジ裏 研三

【教育研修部からのお知らせです。】

7月1日より次のとおり陣容が少し変わりましたのでお知らせいたします。教育研修部長:齋藤 康、次長:大槻 正幸(物流経営士担当)、二課課長代理:新海 英一、三課課長補佐:平子 哲(女性部担当)、一課主任:齋藤 孝行(青年部担当)、松浦 香

なお、三組織の担当等の変更はありませんので引き続きよろしくお願いたします。

総会資料より **平成23年度事業計画**

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

1 活動方針

平成22年度の日本経済は、前半には世界経済の穏やかな回復のなか、中国をはじめとする新興国の経済成長を受け、特に東アジア経済圏への輸出に助けられ、弱いながらも景気の持ち直し局面も見られた。しかし年度の後半は、エコカー減税や家電エコポイントなどの政策的景気浮揚策も期限が切れ、景気の停滞感が強まり、日本経済は相変わらず先行き不透明な状態が続き、景気回復を実感できないうちに推移した。

そのような経済状況のなか、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)と、その地震に連動した大津波の発生によってもたらされた被害は、未曾有のものとなっている。さらに、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の問題は、明確な事態収拾の目処が立たない状況にあり、政府の復興へ賭ける強い政治的意思が感じられない状況下において、今後、日本経済に深刻なダメージを与えることは不可避で、被災地の復興への足かせとならないことを祈るばかりである。また、夏場に向けての電力不足の影響は日本全体を巻き込み、長期にわたる生産活動の低下が懸念されている。

今回の地震は工業地帯を含む東北・関東地方の広範囲に甚大な被害をおよぼし、海に面した町は壊滅状態、道路や港湾等の公共インフラの毀損や日本経済を牽引する大規模な工場にも被害が広がり、製造業を支える企業間のサプライチェーンの断絶は、日本経済が極めて不安定な危機的状況にあることを物語っている。

このような状況のなか、軽油価格の高止まりをはじめ、景気減速の影響により輸送量は激減し、各事業者の経営はかつてない厳しい状況に直面しているが、我が国の国民生活、産業活動のライフラインを担うトラック運送業界は、東日本大震災に係る対応はもとより、コストに見合った適正運賃の収受をはじめとして、事故防止、環境対策、法令順守、少子化時代の労働力確保など、我々に課せられた公共的使命の達成と、今後のトラック運送事業の発展を期して活動を展開していかなければならない。さらに我々は、経済環境がどんなに厳しくとも、安全な輸送を通じ、社会に安心を提供するという社会的使命を疎かにするわけにはいかない。「安全はすべてに優先する」という理念のもと、「安全」を確立するための取り組みを、これまで以上に、様々な角度から追及し、研修を重ねて行くことが重要である。

今年度も引き続き、「安心を未来へ」を統一テーマに研鑽を重ねるが、事業者として安定した経営を継続することが、国民への安心を提供することに繋がることから、「原価意識の徹底により、再生産可能な適正運賃の収受」を協会と共に積極的に推進し、さらに事故防止への取り組みとして、ドライブレコーダーの装着車両を拡大し、運輸安全マネジメントの確実な実行を通じ、事故撲滅の徹底に取り組むこととする。

さらに経営者トップはもちろん、トラック輸送に携わる全ての人の安全に対する思想、つまり「絶対に事故は起こさない」という強い信念と、安全を優先する企業風土作りに継続的に取り組み、「貨物自動車運送事業安全性評価事業」(Gマーク)取得の拡充を図り、「グリーン・エコプロジェクト」との連携を取るなか、環境への配慮と安全活動は不可分一体のものであるとの観点から、「グリーン経営認証」の取得も推進する。

我々は常に社会のなかに存在し、使命感を持って事業を営めることに感謝し、仕事を通じて社会へ貢献する気概を持ち、コンプライアンス(法令順守)を重視し、社会的使命を果たし、事故の根絶に努める活動を、今年度も多くの会員に参画していただき展開する。同時に青年部、女性部とも連携を取り、連帯、挑戦、貢献、この三つの言葉に想いを寄せ、一層の結束を固め、共に研鑽を積み、この厳しい経営環境を克服すべく活動に取り組むものとする。

2 年間統一テーマ 「安心を未来へ」

3 事業計画

(1) 政策提言活動の実施

ロジスティクス研究会では、平成6年以来10回にわたり政策提言を行っているが、平成18年度より毎年度研修結果の取りまとめとして発表している。

今年度も研修等の内容を研究し、その成果を発表することとする。

(2) 研修会の体系的・計画的実施

年間統一テーマにかかる内容で効果的な研修会を実施する。

(3) フォーラムVIの開催

年間統一テーマに即した企画で実施する。

(4) 納涼会の実施

会員間の親睦を図るとともに、関東運輸局・東京運輸支局長表彰等受賞会員を祝賀する納涼会を開催する。

(5) 温故創新セミナーの実施

歴史上の人物の足跡を現地で学ぶ「温故創新セミナー」は、一昨年度・昨年度と秋山好古・真之兄弟の足跡を訪ね、愛媛県松山市や中国大連・旅順(203高地等)で明治時代を学んだが、今年度も古きを訪ね新しきを創るセミナーを企画し、実施する。

(6) 人材養成事業への協力

ロジスティクス研究会が青年部OBによる自主的研修集団として発足した経緯に鑑み、今後とも人材養成等財団の研修事業に協力していく。

特に次世代経営者を養成する「物流経営士課程」については、旧壮年部員が参加した特別物流経営士課程がその嚆矢となっていることから、講師・指導員として協力していく。

また、運輸事業助成交付金による支部研修活動についても、三組織による合同研修会の企画等についてリーダー的役割を果たすよう務めていく。

(7) 広報活動の充実

機関紙「ひびき」は、会員の貴重な情報源であることから、テーマを決めた紙面作り等により工夫を凝らしていくとともに、ホームページとの連動を図る。

また、ロジスティクス研究会ホームページについては、活用の可能性を高めながら引き続き展開・運営していく。

(8) 忘年会の実施

会員間の親睦を図り、新年に向けた鋭気を養うため忘年会を実施する。

(9) 親睦ゴルフコンペの実施

健康増進とコミュニケーションを図るため、親睦ゴルフコンペを企画する。

(10) 組織の充実強化

各支部の実情を把握し、会員の加入促進を図る。

(11) 東ト協本部との連携強化

東ト協本部との連携を更に深め、諸施策等を密接な連絡体制のもと推進する。

(12) 三組織の連携

三組織合同セミナー・交流会等の実施

①青年部、女性部との三組織は、世代、性別を超えた物流事業経営者としての連携を強めるため、合同の事業を企画・実施している。今年度は、例年2月に開催している三組織の合同セミナー・新年会はロジスティクス研究会が担当する年であり、会員の力を結集し、実施する。

②三組織連絡会の運営

三組織の連携をより密にし、各組織の事業の円滑化を図るとともに東ト協の政策の浸透を図るため、定期的に開催する。

(13) 関東運輸局自動車交通部・東京運輸支局との情報交換の推進

合同でトラック産業の将来ビジョンに関する勉強会を開催する等により情報交換を推進する。